

学校の風景

小さくてもきらりと光る学校 川通小



岩槻区 川通小学校 教頭 鈴木 康 弘

1 はじめに

本校は、さいたま市の東端に位置し、学区が春日部市や越谷市と隣接している。旧川通村の唯一の小学校という歴史があり、地域の多くの方が本校の卒業生でもある。そのため地域との連携はよく取れている。また、学区内に元荒川が流れ、田畑が多くあり、とてものどかな景色を見ることができる。全校児童216名、学級数が7という小規模校である。

2 市の研究推進委嘱（理数教育）を受けて

平成24年度から市の研究推進校の委嘱を受けた。研究対象を算数として、研究主題を以下のように設定し、授業を中心とした研究に取り組んでいる。

「できる喜びと分かる喜びを
味わえる子の育成」
～基礎・基本を身に付け、
思考力と表現力を育成する指導の工夫～

3 今年度の学校課題研究の主な取組

(1) 研究の概要・特色

- ・研究仮説「算数の教材研究を十分に行い、学習環境を整え、学習形態や学習展開を工夫すれば、子ども達はできる喜びと分かる喜びを味わうことができるだろう」
- ・研究の視点1…基礎・基本の確実な定着を図る指導
- ・研究の視点2…思考力と表現力を育成するための指導
- ・本校の研究の特色…実態が同じ子を小集団にして支援し、指導の効率を上げている。例えば、自力解決で手のつかない子を小集

団にして、既習内容から丁寧に指導する。

また、中程度および進んでいる子には、1つ目のやり方で解決した後に他のやり方を考えさせる。その中で、



隣の教室での小集団

同じ着想をもち解決できていない子を小集団で支援し、多様な考えができるようにさせている。

(2) 研究授業を通して

第1回目の研究授業は、教頭自ら提案授業を実施した。その後はすべての担任が、1回ずつ算数の研究授業を実施した。

(3) 専門部の取組

授業研究部は、授業形態の研究を進め、本校の算数の授業の一般的な形や指



階段の掲示資料

導案の形式を提案した。また、学年ごとの基礎・基本の系統表（川通小 算数スタンダード）を今年度中に完成させる予定である。学習環境部は、児童の実態調査・分析をするとともに、教室や校内の掲示を工夫した。

4 おわりに

来年度は、授業中心の研究を進めた結果を発表致しますので、本校へどうぞおいでください。